

# 2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 18 節 vs.FC 今治

7/15 (土) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



## 2023 J3 ■順位表■ 第17節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	愛媛	32p	+3	24	21	A●
2	鹿児島	31p	+10	26	16	HO
3	富山	30p	+8	29	21	HO
4	奈良	27p	+11	23	12	A●
5	今治	27p	+6	25	19	
6	沼津	27p	+3	21	18	A△
7	八戸	26p	+5	21	16	A●
8	FC大阪	26p	+2	16	14	H●
9	松本	25p	+5	29	24	H△
10	岐阜	25p	+4	18	14	---
11	琉球	23p	-5	20	25	HO
12	鳥取	22p	-1	24	25	AO
13	宮崎	22p	-3	15	18	A●
14	岩手	21p	+1	21	20	H△
15	YS横浜	21p	-4	23	27	H●
	長野	21p	-4	23	27	
17	讃岐	19p	-14	11	25	AO
18	福島	15p	-11	11	22	AO
19	北九州	14p	-7	16	23	A△
20	相模原	10p	-9	16	25	HO

## 次回HomeGame

第19節 vs.長野パルセイロ

7/22 (土) 18:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

## 大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

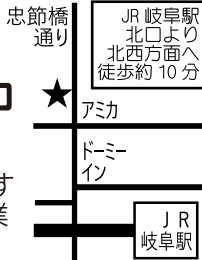
「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

今日もここから  
串かつで一杯

煮込み珍道中  
串かつ

14:30 ~ 22:00  
※売り切れ次第、終了です  
火、水、金、土 (祝日除く) 営業  
TEL. 058-252-1580



## today's guest : FC今治

2022 J3 18勝6分10敗 勝ち点60: 5位

### 直近の対決と結果

2022/08/14  
J3 - 20節@夢スタ

今治 1-0 岐阜

### ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	FC今治
2023/07/12 天皇杯3回戦@長良川 福岡2(延長)1 岐阜	2023/07/08 J3-17節@里山S 今治 1-1 沼津
2023/07/09 J3-17節@ロートF 奈良 1-0 岐阜	2023/07/01 J3-16節@長野U 長野 0-4 今治
2023/07/02 J3-16節@長良川 岐阜 0-0 岩手	2023/06/24 J3-15節@里山S 今治 2-0 讃岐

●勝利を積み重ねて5位に順位を上げ、ようやく上位の背中が見えてきた我々がFC岐阜。7/2(日)第16節・ホーム岩手戦は、リーグ戦3連勝(1引き分けを挟んで6連勝)を掛けた試合。ほぼ試合のペースを握り続けて攻勢を掛ける岐阜だったが、フィニッシュに至るプレー精度が悪く、ゴールに繋がらない。結局、シュート12本を撃ちながらスコアレスドローとなった。続く7/9(日)第17節・アウェイ奈良戦は、上位への挑戦権を賭けた“勝点6マッチ”。この試合でも岐阜が優勢な時間を多く作るものの、やはりゴールを奪えない。そして終盤になるとオープンな展開となり、岐阜が決定機を迎えるものの、やはり得点を決められずにいると、後半ATの最後にまさかの失点。これが決勝点となり、0-1。衝撃的な結末で、岐阜は7試合振りに敗戦を喫することとなった。そして中2日で迎えた7/12(水)天皇杯3回戦は、J1福岡との長良川での一戦。2回戦の清水戦と同様にスタメン全員を入れ替えて臨んだ岐阜だが、それでも福岡と互角に戦い、前半39分に#26羽田一平のミドルで待望の先制点を挙げる。後半になると、攻勢を強める福岡に対して守る時間が続き、耐え続ける岐阜だったが、後半84分に追いつかれてしまい、延長戦に突入。延長戦でも福岡が攻めて岐阜が守る展開がずっと続いたが、延長後半10分にCKを沈められてしまい、1-2。格上のJ1福岡を最後まで苦しめ続けたFC岐阜だったが、ここで力尽き、今年の実業杯は幕を閉じた。ここからの岐阜は、J3リーグ戦に集中して結果を出すことが求められる。

さて、リーグ戦の2試合で勝点1しか積み上げられなかったFC岐阜は、順位を5位から10位に下げた。ただ、岐阜にとって非常にありがたいことに、今季J3の大混戦はまだ続いている。首位に立った愛媛との勝点差は7、2位・鹿児島との勝点差は6と、まだ現実的にも十分追いつける差だ。今季J3シーズン前半戦の残りは2試合、いずれもホーム戦だ。このホーム2連戦で連勝して再び波に乗り、良い形でシーズン後半戦に望むことができれば、まだまだJ3優勝のチャンスは残っている。まずは、今日のホーム戦でしっかりと勝利し、流れを取り戻すことから始めよう。

さて、今節の対戦相手はFC今治。昨季は5位に終わり、今季は、かつて鳥取で監督を務め、昨季はヘッドコーチだった高木理己氏が監督に昇格して指揮を執る。戦力も増強し、現在は5位。前節は沼津に試合終盤で追いつかれ1-1のドローに終わったが、直近5試合では2勝2分1敗と好調を維持しているチームだ。また、今治は天皇杯は6/7(水)2回戦で福岡に0-2で負けているので7/12(水)に試合がなく、1週間の準備期間を経てこの試合に臨んでいる。対する岐阜は、天皇杯3回戦から中2日。ほとんどの選手を入れ替えてくると思われるが、準備という面では、若干の不安要素があると言えるだろう。一方の今治は、#10マルクス・ヴィニシウスが累積警告で出場停止。今治にも不安要素が若干あると言える。

今治との対戦成績は、岐阜の2勝1分3敗・5得点12失点と負け越している。特に、昨季は7/3(日)第15節に0-5と大敗、昨季のチーム低迷の発端となる試合だった。そして8/14(日)第20節アウェイ戦でも1-0で敗戦し、昨季は“ダブル”を喫している。今節は、その意味でも勝たなければならないし、ましてや勝点差が2の“勝点6マッチ”での勝利の価値は、誰よりも選手たちが良く分かっているはずだ。

今治で最も警戒すべき選手は、現在8得点の#6ドウドウだろう。前々節の長野戦でハットトリック、前節の沼津戦でもゴールを挙げ好調だ。このブラジル人FWを自由にさせないことが、岐阜が勝利するための必要条件だ。また、昨季途中から加入したベテラン#50三門雄大は、全試合でスタメン、さらにほぼフル出場してチームを牽引する。岐阜の#42柏木陽介との中盤のマッチアップにも注目したい。そして最も注目したいのは、岐阜の守護神#1茂木秀太。昨季は今治に期限付移籍で在籍し、20試合に出場。岐阜が敗戦した2試合でも今治のゴールを守っていた。GKが活躍するのは望ましいことではないが、昨季までいた古巣対戦に燃えていないはずがない。

今節もナイター開催だが、蒸し暑い環境での試合となるだろう。そして今節は岐阜市民総力戦。多くの観客が駆けつけた長良川競技場で、最後まで走り続け戦い続ける選手たちの背中を後押しする応援を、僕らFC岐阜サポーターも最後まで続けて、そして最後には、勝利の“HYPER CHANT”を、選手たちと共に歌い上げよう。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第16節】岐阜0-0岩手

●勝てそうで勝てなかった。やられそうでやられなかった。

どっちとも言えるかな。

チャンスを多く作っていたのは岐阜。だけどいわてのCB2枚(田代真一と甲斐健太郎)の壁は強固だった。さすが場数を踏んできてるだけのことはあった。あとは90分+a、お互いに相手の良さを消し合っていた感じだった。そんな中での結果なので、この引き分けは前向きに考えられると思う。

岐阜は守る時の約束事がしっかりしていたし、攻める時はシステムティックな動きが出来てきているなあという印象。試合途中にスタジアムの後方金華山からポッカーリ月が出てきたのが幻想的だったな。今年の限定ユニ、まさに岐阜らしい。試合終了後、挨拶に来た甲斐健太郎に岐阜サポからの惜しみない拍手。愛されてるよなあ。(岐阜の誇り)

●まだ梅雨明けには少し早い、やはり今年もやってきた岐阜の猛暑。しかも今年は全国的に平年よりも暑いとか……(溜息)。となると心配になるのが、毎年のように夏場から徐々に、調子と勝点と順位を落としてゆくウチのチーム状況ですよな(苦笑)。とりあえず今のところは4連敗から立て直したものの、ここから再び調子を落としてしまうのでは……という心配は、結論から言えば、とりあえずは僕としては、この試合では“判断保留”になりました。

好印象というか、少しホッとした(苦笑)のは、この試合でも岐阜の選手たちが良く動いていたこと。このコンディションが今後も維持できるのであれば、今季は夏場を上手いこと乗り越えられるかもしれないと思った。ただし、僕の目には#10庄司悦大と#42柏木陽介のダブルボランチは、プレーに安定感はあるものの、その運動量に不満が残る。特に、カウンターを浴びて相手に中央突破されると、ズルズルと最終DFラインまで行かれてしまう場面が気になる。まあ、現在は#17藤谷匠と#40川上竜のCBコンビが安定しているので、よっぽど崩されない限りは大丈夫かなあとも思うのだけど。不安材料は、とにかく決定力不足というかフィニッシュ直前のプレー精度不足が理由で、ゴールが奪える気配が感じられなかったこと。シュート数の最終スタッツは、岐阜の12本に対して岩手は3本。それだけ撃ちや、1点ぐらい入っても良いんじゃないですか……(苦笑)。それと、セットプレーで得点が生まれる気配が、僕には感じられないのです(溜息)。よくDAZNだと“左なら柏木、右なら庄司と、岐阜には優秀なキッカーが……”とか聞かされるんですが、もう僕にはイヤミにしか聞こえなくて(苦笑)。記録を調べると、今季はセットプレーで2点獲ってるんだとか。だけど、それって少ないと思うし、そもそもアウェイ讃岐戦での#17藤谷のヘッドしか僕の記憶にないんですが(苦笑)。やはり強いチームは、試合の展開が自分たちの流れにない状況下でも、セットプレー1発でゴールを奪い、勝利をもぎ取ってしまうものだと思う。そういう姿勢は、現在の岐阜には感じられない。やはり、上野監督は1年目ということもあって、まずは守備面やフィジカル面での強化を重要視していて、まだ攻撃面の強化には……ということなのかもしれないと思う。そして、そのアプローチはチームを強く成長させてゆく手順としては間違っていないと僕も思うのだけれど、今季のJ3が現時点では大混戦で、1年目でもチームが上手く波に乗れたら、もしかしたら……と、つつい目先の欲が出てしまっている僕としては、何ともはや、歯がゆい気持ちになってしまうのです(苦笑)。とりあえず、選手の皆さんは居残りしてシュート練習やFK練習してください、お願いします(笑)。(ささたく)

●東の空にはお城と満月。まるで、昨季の限定ユニを見ているかのような情景が浮かぶ中での試合はスコアレス・ドロー。(ココで「正真正銘のスコアレス・ドロー」と言っても、元ネタを知らない世代も増えたんだろうなあ。)前半にはいくつかの決定機があったけど、そこで決めきれなかったのが残念。特に、チャーリーのポスト弾。なんで決まらないかねえ。

試合を通じて、好機になりそうな展開はウチのが多かったような気がするが、決定機は向こうにもあって、とても残念で悔しいんだけど、この結果は妥当。他の試合で上位が足踏みしたんで勝ちたかった。けど、まあ、今のところはコレが精一杯……かな?とりあえず、「カイケンの壁は高く厚かった。」と言っておこう。もちろん、彼ひとりに阻まれたワケじゃない。こういう試合をモノにする力を備えないとね。自分の中では、今季は残留が目標だったけど(一時はヤバい位置まで行ったもんね)、この試合を見る限り、その心配はなくなった……と思いたい。となると、クラブの目標である『昇格』を勝ち取るためには得点が必要。特にFWが取ってくれたら、意気はアがる。もっと言えばプリンスな。キミがノってこないと勢いがつかない。そんな気がする。ガンバレ!頼んだよ!(ぐん)

●よく『隔世の感』って言うじゃない。アレよ、アレ。ホントに隔世したんじゃないかってくらい、岐阜のサッカーが良くなっている。ほんの二月前、GWにYSCCに無残にやられて降格ゾーンのすぐ上ってあたりまで落ちた時と同じチームとは思えない。パスコースがある、パスがつながる、パスに目的がある。こんなに簡単に「チーム力」って上がるモンなの?もちろん、そんなことはない。サッカー・メディアが行った上野監督のインタビューは少しだけ読んだけど、そこに「どんだ底だった時、『何が出来ていないのか、なぜ出来ていないのか』徹底的に分析した」というようなことが書いてあった記憶がある。日本代表チームが持っている分析手法。それをクラブで使って落とし込んで。

もちろん、だからと言ってすべてがうまく行くわけじゃない。どんだけ分析をしっかりとしても、「やれ」と言われて出来る選手ばかりじゃない。いわんや、岐阜はJ3だ。それでも、「チームというのはここまで良くすることが出来る」という『監督の仕事』というものを見せてもらっている気分だ。はっきり書いちゃうけど、そんなの岐阜がJ3に落ちてからは視たことも触れたこともない。

ぼくがGWの頃に上野監督のことをかなりネガティブに書いてたことは事実です。「だが私は謝らない」(笑)。だって、その時はそうだったんだもん。「上野監督ならやってくれる!」とは思えなかったんだもん、そりゃそうよ、上野さん自身がJチームの監督初経験だったんだから。

この試合、岐阜にも岩手にも決定機があり、だから2-0で勝つ絵も0-2で負ける絵も描けた。おそらく『旗の上げ下げ』なら2対1で岐阜の優勢勝ちになっただろう。でも、サッカーはそういう競技ではないので、引き分け。ぼくは納得しています。(吉田 Casting)

## 【第17節】奈良1-0 岐阜

●せつかく。折角この節も前日土曜日開催の試合が岐阜の理想的に上位チームが足踏みしてくれたので、勝利して追いつくチャンスだったのに。なんという劇的な敗戦。まあ、逆に奈良の立場で言えば“劇的な勝利”で、そういうのがサッカーの醍醐味といえ、そうなんですが……（苦笑）。負ける立場になると、やはり精神的なダメージがもの凄く酷いです。

確かに#48 田口は決めなきゃいけない絶好のチャンスで外した。あれを決めていたら勝てただろう。だから、#48 田口『に』敗戦の責任があるのは間違いない。だけど、#48 田口『だけに』敗戦の責任があるのか？という、違うと僕は思う。逆説的に言えば、#48 田口は後半74分から出場して、約20分間で決定機を（少なくとも2回は）つくった選手だ。もちろん、相手DFが消耗してきている時間帯に投入されたのだし、そういう時間帯に得点は生まれるものだから、当然という意見もあるだろう。だけど、その前の70分間で、スタメンの選手たちが着実に得点できていれば、問題なく勝利できた試合じゃなかったのか？という見方もできるんじゃないだろうか。だって、後半途中までは、ほぼ岐阜のペースで試合を運んでいたと思うから。だけど、試合の安定性（ボールを奪われないこと）ばかりを追い求めて、ゴールを狙ってチャレンジできる場面で、安易に自陣でのボール回しをするプレーが多かったのではないだろうか。あるいは、この試合でも敵陣でのセットプレー（FK）が多くあったが、この試合でもセットプレーに全く得点の匂いがしないのは、やはりチームの攻撃面に問題があると言わざるを得ない。だから、スタメンの攻撃陣の方が、より敗戦の責任を感じてプレーの向上を目指すか、あるいは監督がメンバーを入れ替えて、スタメン時から攻撃を活性化させることが必要なんじゃないだろうか。そういえば、相手のゴール前で混戦してる際に撃ちきって……っていう得点シーン、今季あったかしら？裏に抜け出して……というパターンが非常に多いような気がする。そもそも、相手ゴール前での混戦で競り勝って得点するということが、今季のウチは苦手というか、できないチームなのかもしれない。

それと、後半68分と早い時間帯で#8 窪田を交替させたのは、中2日で迎える天皇杯3回戦を視野に入れての策だったように思えた。おそらく多くの選手が（2回戦の清水戦がそうだったように）入れ替えになるのだけれど、#8 窪田はサブメンバーにいて、途中出場していた。そういった交替策が、残念ながら敗戦の要因のひとつになってしまったようにも思う。本当に勿体ないし、悔しい敗戦。だけど、泣いたって後悔したって、失った勝点は戻らない。だったら、二度とこんな負け方はするものかと気持ちを奮い立たせて、次の試合で勝利を目指すしか方法は無い。まだまだ、僕らは弱いのだ。チームもサポも、少しずつ強くなってゆくしかないし、強くなれると思っている。（ささたく）

●「奈良と言えば？」と聞かれたら「修学旅行。小学校の。」と答えてしまうのが自分。まさか、その思い出の地でJリーグの試合を観ることになるとはね。さらに言えば、三重や滋賀、あるいは、福井や和歌山の方が先だと思ってた。奈良クラブの関係者並びにサポーターの方々にお詫びと敬意を表する次第です。

東大寺転害門からスタジアムへ向かう道すがらには聖武天皇、光明皇后の御陵もあるのは、さすが千三百年の古都ではある。そんな中で近づいてきたロートフィールド。アレが新設されたという照明か。なんか、年季が入ってるな、と思ったら野球場だった件。そこから、既に古都の幻影に惑わされていたのかもしれない。いや、自分如きがどれほど惑わされようが問題ないんだけどね。

試合を通じて啞然とさせられたのが奈良サポの応援スタイル。彼ら、「かなりの時間で試合を見ていない。」……。原曲【アッコちゃん】のチャントがあると聞いていたので「対決だ！」とは思ってたんだけど……。前半の、敵陣に攻め込んでる時

だけではなく、自陣で相手のCKというピンチでも、後半に味方が自分達側のゴールに向かってきても、同じように隊列を組んで左右に動き回る行為を続ける。その間はピッチに正対しない、つまり、選手の方を向かない応援。そんな応援を、ボクは寡聞にして知らない。「お金を払って試合を見ない」スタイル。雨乞いならぬ、勝利乞い。念仏踊りのようでもある。古いようで斬新な応援のおかげか、奈良の失点はリーグ最少。念仏というよりは『呪詛』だったのかも。それに、まんまとハマってしまったということか。

そんな試合の結果はツラくてキツいサヨナラ負け。何度も観たことのある負け方だった。ラスト30秒まで、負ける要素はひとつもなかった。（冷静に考えれば、0-0なんだから、「負ける要素はひとつもない。」などとは言えないワケで。ソレは承知の上で。）ただ、向こうには決め切る選手がいた。ウチにはいなかった。それだけのことだ。ユーヤが2本のうち、どちらかを決めていたらウチが勝ってた。だから、彼にはもっとシュート練習してもらいたい。しかし、だからといって責めるつもりは微塵もない。ユーヤだから、ああいう場面を作り出せた。作れない者には外すこともできないのは自明の理。だからこそ、スタンドから声を掛けた。「顔を上げろ！」と。「こんなもんじゃないだろ！」と。そして「次こそ決めよう！」と。彼の耳に届いたかどうかは知らない。けれども、今度出てきた時には期待しか抱かない。まずは、天皇杯2戦連発、だね！最後に、奈良戦が始まる前、コルリがメインに向かって『檄』を飛ばしてくれた。アレはアガったね。アソコから、ゴール裏だけでなく、メインもアツくやれた。そうやって、いつでも、どんな時でも背中を押して、選手と向き合う。そんな応援がボクは好きだ。岐阜サポでよかった。つくづく、そう思ったよ。（ぐん）

●開幕の北九州戦以来になる、アウェー観戦。奈良鴻池は3回目の訪問だけど、過去2回はメインスタンドだったからね（関西リーグとJFL）。ゴール裏がこんなにも厳しい環境だったとは。土手の傾斜の緩さ、途中から時折激しく降る雨。おまけに、対面で見続けさせられた奈良サポの応援スタイルが……うーん……まあ、よそにはよその流儀があるのしょうから、これ以上は。とにかく、いろいろと堪える観戦環境だったけど、後半アディショナルタイムの終了間際に一番堪えるイベントが来るとは（ためいき）。

「その時間帯に失点して負ける」経験なんざ、両手の掌で掬いきれないくらいある（たぶん）。でも、この日の負けがいつにも増して堪えたのが、かなりの確率で「その時間帯に得点して勝つ」経験をしそうだったから。その点で、その時間帯に決定機と超・決定機を立て続けに外した田口には敗戦の責任がある。「田口だけ」とはもちろん言わないけれど、間違いなく彼には責任がある。プロ・サッカー選手は、ファン（FAN）にファン（FUN：喜び）をもたらすのが仕事だから。

もちろん、誰にだってミスはある。このテキストを読んでいる皆さんだって、いくつかの経験はあるでしょう。でも、ミスで生じた損害に対する責任はなんらかのカチで取っているはずだ（始末書を書いたりとか、菓子折り持って顧客にアタマ下げに行くとか）。だから、田口も責任を取らなければならない。

責任をどう取るか。もちろん「次は外さない」ことだ。この『岐大通』に何回か書いていると思う話をまた書く。イングランド・プレミアリーグに所属していたウィンブルドンFCの降格が決まった時、監督だったテリー・バートンは試合直後のテレビのインタビューでこう語っている。「人間が失敗した時にすべきことは3つある。それを認め、そこから学び、二度と繰り返さない」。この試合、ここぞという時に田口が出来なかったことを、奈良のエース・浅川は出来た。そして奈良サポに勝ち点3を持って行った。ならば、田口も出来るようになればいい。岐阜のファン（FAN）にファン（FUN：喜び）を持って行けばよいのだ。（吉田铸造）

## 【天皇杯】福岡 2(延長)-1 岐阜

●試合前、両軍のスターティングイレブンの顔ぶれを見比べて、これは何点取られるやら、果たして試合になるのかとまで思ったりしたものだが……。結果的には負けてしまったけれど予想以上の大健闘、しかも先に点を取るなど（羽田一平選手、プロ初ゴールおめでとう！）。

しかし相手は2つもカテ上。前半は抑え気味にプレーしていたのは明らかだったし、徐々にフィジカルもテクニックも上回られていくのが目に見えて分かったし、最後はゴール前からボールを運ぶこともままならなかった……。

でもこの日のメンバーの奮闘ぶりは、きっとリーグ戦のレギュラー陣にもいい刺激になったはず。うかうかしているとすぐポジション奪われる、それくらい日頃から緊張感があって皆で同じ方向を向いてやっていければ、先々に繋がるものだと思う。120分いい試合を見せてもらってありがとう。（岐阜の誇り）

●試合前、牛串こもりの屋台には久々に大将がご来場。お元氣そうで何より。勝ち点3のつもりで三本買ったが、そもそも勝ち点関係ない試合だった（笑）それはさておき、開催された試合は天皇杯。主催が県協会なのでスタグルは、正直、期待していなかった。出店していただいたお店の方を含め、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

この試合も2回戦に続き、延長までもつれ込んだが、今回は勝ち上がりは叶わず。結果は残念だったけど、「納得せざるを得ない。」というのが正直な感想。がんばってくれてたけど、基礎的な部分、サイズとか、フィジカルとかまで含めていると差があるな、と。やはり、J1 サマは違う。オマケに、延長途中で190センチくらいの外国人DFを投入してくるなんて。反則だぞ、福岡。大人気ない（苦笑）。

まあ、最初っから外国人2トップへの放り込み、なんていう省エネな戦法取られてたら90分負けもあった。そういう手段を取らなかった福岡としては『計算通り』の勝ち上がりだったかもしれない。よくわからんが、何か、狙いがあったの慎重？な試合運びをしていたような気もする。彼らのそういう姿勢がウチに好影響を与えたのかもね。福岡のサポさんの的には90分で帰ってたかっただろうけど。ソレを阻止しただけでヨシとするか（笑）。

清水戦同様、ウチのサブ組はよくがんばった。脚元やテクニックとか、ビルドアップとかは「トップよりも上手いんじゃないか？」と思ったのはここだけの話にしといてください。それにしても、ダブルボランチ、龍磨と和音の自由闊達なイキイキとしたプレー。ヒリヒリとする展開だったのに楽しかったなあ。AT入れてあと10分ぐらいだったねえ。

もちろん、この中の何人かが、リーグ戦スタメンになったとして、同じようにやれるかはわからない。けど、この内容なら、この試合で休んでたメンバーに疲れが出てても代役になれるんじゃないか。毎年繰り返してた、これからの時季の停滞を、今季こそはぶち破れるんじゃないか。そんな期待に胸が躍る試合後でした。

あ、一平くん、プロ初ゴール、おめでとう！これからを楽しみにしていますよ！ただ、キミが早い時間に負傷交替したのは痛かった。アレは誤算だったよね。たいしたことないのを願ってます。（ぐん、）

●ホントに「誇らしい」という形容しか出てこない。相手はJ1、こちらはJ3。相手はレギュラー揃い、こちらはスタメン全員がリザーブあるいはベンチ外。それでここまでの試合が出来てしまう。もちろん、福岡は前半ほとんどネジを巻かずに互角の試合展開だったし、「もしかしてナメてますか」つてくらいに岐阜の司令塔・北を野放しにしていたし。それでも数少ないチャンスを、シュートがDFに当たってコースが変わったとはいえ一平のゴールで先制。

しかし、「ご存知ですか、J1が軽くネジを巻くところなりませう」って感じで、井上尚弥のボディブローを4ラウンドにわ

たって受け続けるような後半になると福岡との差がどんどん明らかになっていく。後半なかばには福岡が岐阜からボールを奪取するゾーンがハーフラインとゴールラインの真ん中くらいまで押し上げられて（岐阜からすると押し下げられて）しまい、クロスをヘッドで合わされて同点に。延長戦になると、ほとんど攻撃に割けるリソースはなくなってしまい、リョウ君投入も前線でチェイスするだけに。決勝点も延長後半にヘッドで決められ、残念ながら敗退。PK戦に持ち込むことは出来なかった。

さて、この試合で「岐阜はリザーブ戦力も充実している、連勝して一気にJ2昇格だ！行ける行ける！」……という手応えは、ぼくにはない。清水戦、そしてこの福岡戦で見えたのは、この天皇杯メンバー、リザーブ中心チームの「チーム力」。全員がキチンと自分のポジションの役割を果たし、おそらくは数値化出来る「チーム力」を超える力を発揮した（それでもJ1相手だどこまでなのだが）。でも、だからといっていまのリーグ戦メンバーの座を奪える選手はというと、どうだろう。既にリーグ戦でリザーブだったリスタメンに入ることもある選手になる。北とか、アユくんとか、ユーヤとか。

別の視点で言うと、「この天皇杯メンバーそのままJ3リーグを戦う」というのは観たい。すごく観たい。それだけの「チーム力」は、絶対にある。でも、それって思いっきり『ベストメンバー』条項に抵触するよなあ（苦笑）、というか、まだあるのかなあの条項（再苦笑）。（吉田铸造）